



西宮 えびす

N I S H I N O M I Y A E B I S S U

令和三年
夏号

太々神楽の歴史

太々

神楽祭

太々神楽祭は、えびす

さまを厚く崇敬する団体や

各講社の方々がご神前に神楽を奉納

することによりご神徳を戴くおまつり

です。現在は最も気候の良い新緑麗しい五月上

旬に神楽祭が集中しており、この時期には多く

の参拝者で境内が賑わいます。

祭典では拝殿齋庭にて神楽・

舞樂が奉納されたのち、参列者

は特別にえびすさまに一番近い

本殿大床にて昇殿参拝をして

いただきます。



特別昇殿参拝の模様



萬歳楽(まんざいらく)



豊城楽(げんじょうらく)



五節舞(ごせちまい)



豊米舞(とよさかまい)



■太々神楽祭の歴史

西宮神社の太々神楽祭の始まりについては、当社に残されている社務日誌に記されています。江戸時代中期にあたる享保十七年（七三三）、江戸に店を構える有力な氏子が「近來江戸において太々神楽と名付けて講を結んでいる」ことから氏子十七人で講を結び（江戸太々講）、西宮神社で神楽奉納の要望がありました。しかし神社としては初めてで急な話であったことや、当時新しい神事祭礼を行う場合は尼崎藩の許可が必要であった為、この年は恒例の「千度祓」として神事を齋行し、尼崎寺社方に対しても明確に「左様（太々神楽）二而は無御座」と記されています。



寛保2年社務日誌表紙

十年後の寛保二年（七四二）の社務日誌の表紙には「四月大々御神楽始り」と書かれており、三月二十二日条には、西宮神社から尼崎寺社方に「太々神楽祭執行」の願い出がなされています。

そして四月十六・十七日両日で

太々神楽祭が執行され「諸參詣如雲霞各渴仰之思ひヲなし及感涙候」と感動的に齋行された様子が伺えることから、西宮神社の太々神楽祭は寛保二年に始まったとされています。日誌を見ると当時は毎年行っていた訳ではなく約五年に一度行われていたようで、齋行月も現在のように五月ではなくまばらでした。それが幕末頃から毎年太々神楽が奉納されるようになり、明治維新の混乱時に二時中断していた時期もありますが、明治五年には再び西宮酒造仲間から御神前に太々神楽の奉納があった記録が残されています。

明治二十年頃には五月上旬に各団体の太々神楽祭を奉仕する形となり現在まで続いております。



戦前の太々神楽祭の模様

太々神楽祭 日程について

太々神楽祭の願主(主催者)は、現在も続く「西宮郷醇友会」「大阪第一招福組」や江戸太々神楽講、尼崎組・伊丹繁栄講・大阪参拝講・灘樽木組合など西宮以外の「講」の奉納もありましたが、時代とともに移り変わっています。

明治45年

- 1日 西宮酒造仲太々神楽祭(終戦後は西宮郷醇友会)
- 2日 諸国講社祭(神社主催)、八馬家神楽祭
- 3日 第26回大阪第一招福組太々神楽祭
- 4日 尼崎伊丹合同神楽(終戦後関係講元の消滅などで取止め)
- 5日 西宮太々講社太々神楽祭(昭和38年5月西宮太々講社として復興)
- 6日 大阪参拝講太々神楽祭
- 7日 西宮樽製造組合、灘地方樽木商組合合同神楽祭(現在は取止め)

この頃は露店が朝早くから出店しており、祭典後餅まきがある為、子供達がたくさん集まっていました。

現在(令和3年)

- 1日 第150回西宮郷醇友会太々神楽祭
- 3日 第135回大阪第一招福組太々神楽祭
- 4日 第67回日供講社太々神楽祭
- 5日 第59回西宮太々講社太々神楽祭
- 6日 第49回諸国講社太々神楽祭 ※中止
- 10日 第42回本えびす講社太々神楽祭



時代不明 南神苑に横長の石柱(江戸太々神楽講)



時代不明 南門付近に縦長の石柱(太々講社)



寛保3年(1743) 神明型の大石燈籠(江戸太々神楽講)



江戸後期~明治頃 永代太々講 堂鳥 銘



江戸後期~明治頃 蛭子講 永代京都 銘



昭和61年 奉納額(大阪第一招福組100周年記念)

現存する太々講
奉納物



昭和42年 春日八角型大石燈籠(大阪第一招福組80周年記念)



平成23年 本殿帽額(大阪第一招福組125周年記念)



平成25年 神池鯛の石像(西宮太々講社再興50周年記念)

各講社紹介

太々神楽祭にて神楽を奉納頂いている、
当社の四つの講を紹介いたします。

どなたでも、ご入講いただけます。

●本えびす講社

えびす大神様を心の拠り所として
崇敬される方々の集いで、えびすさま
のご神徳を仰ぐとともに商売繁盛・家
内安全など日々のご神助を祈り願う
講社です。

毎年五月十日に本えびす講社太々
神楽祭を斎行。



●献備講社

正月・十日えびすにあわせてご
神前にお初穂料・御品をご奉納頂
き、ご神徳を仰ぐ方々の講社です。

毎年五月四日に日供講社・献備
講社・末社講社合同で太々神楽祭
を斎行。



●日供講社

えびす大神様のご神前に神饌(神
様への朝夕のお食事)をお供えし、ご
神慮をおなぐさめ申し上げるとも
に感謝の気持ちを捧げる方々の講社
です。

毎年五月四日に日供講社・献備講社・
末社講社合同で太々神楽祭を斎行。



●末社講社

西宮神社境内のご祭神ゆかりの
十一社の末社と境外末社一社を崇
敬しご神縁を結んでいただく講
社です。

毎年五月四日に日供講社・献備講
社・末社講社合同で太々神楽祭を
斎行。



十日参りとしらべ

●十日参りとは？

古くから日本では、毎月一日に神社にお参りし、前の月の感謝と新しい月の無事を祈る「お一日参り、お朔日参り（おついたちまいり）」という風習があります。

西宮神社では、一月十日の「十日えびす」にちなんで、毎月十日に「十日参り」として、多くの方にお参り頂いております。

現在「十日参り」では、五つの神事・行事を行っており多くの参拝者で賑わっております。

今後も福々しい賑わいを増やしていく予定ですので、是非毎月十日にはえびすさまの「十日参り」にお越し下さい。

【中旬祭】（本殿）

毎月十日午前十時より本殿にて皇室弥栄・国家繁栄などを祈願して中旬祭を執り行っております。神饌をお供えし、祝詞を奏上し、巫女の神楽を奉納致します。その後、当社宮司の講話がございます。

どなたでもご参列頂けますので是非ご参列下さい。

※新型コロナウイルス感染状況を鑑み、当分の間一〇〇名様限定のご参列に限らせて頂きます。



【とおかしの頒布】

（中旬祭参列者・おかめ茶屋）

中旬祭の後、ご参列の方には「とおかし」として和菓子をお頒布しております。「西宮和菓子ブランド発信事業委員会」に参加の市内

六月

和菓子店が中心となつて開発し、

各店月替

わりで「と

おかし」をご

奉納頂いております。

また毎月十日限

定で各店舗・境内お

かめ茶屋でも販売し

ております。

十月



※新型コロナウイルス感染状況を鑑み、中旬祭参列者数に合わせ100個のみの頒布とさせていただきます。



【沖恵美酒神社月次祭】
(沖恵美酒神社)

毎月十日午前十一時より境内末社「沖恵美酒神社」において月次祭を執り行っております。



「沖恵美酒神社」はえびすさまの荒々しい魂(荒御魂)を祀っており、「あらえびす神社」、「あらえびすさん」とも呼ばれ身体健康・勝負の神様として崇敬されています。
どなたでもご参列頂けますので是非ご参列下さい。

【えびす舞の上演】
(おかめ茶屋前)



「十日参り」の際には、是非西宮の伝統芸能もご覧下さい。

全国にえびす信仰を広めた「えびすかき」。西宮発祥ともいわれる人形操りの伝統芸能を後世に残そうと「人形芝居えびす座」の方達が、毎月十日中旬祭斎行後に境内において「えびす舞」を上演しております。

【末社巡拝】

西宮神社境内には十二社の末社があります。毎月二十・二十日の旬祭斎行後には宮司以下神職が各末社にお参り致します。「十日参り」の際には是非末社巡拝していただき、それぞれの神様の御神徳をお受け下さい。



◎十日参りの賑わい

第二回伝統芸能の夕べ

「文楽〜釣女〜」

十日参りの賑わいのひとつとして、昨年より八月十日に「西宮・伝統芸能の夕べ」と題して、一般財団法人日本伝統芸術文化財団主催のもと西宮神社拜殿前にて伝統芸能をご奉納頂いております。

昨年は能楽師梅若基徳氏による能「羽衣」のご奉納、本年は人間国宝吉田和生氏他人形浄瑠璃音楽座技芸員の皆様による文楽「釣女」をご奉納される予定となっております。

「釣女」は狂言や歌舞伎などでも演じられ、西宮神社が舞台となっている演目ですので是非えびすさまと一緒にご覧下さい。

人間国宝 吉田和生氏



写真 三宅晟介

6月15日(火)より予約開始!

問い合わせ先
一般財団法人日本伝統芸術文化財団
TEL.0798-48-5570





西宮神社と人形劇の図書館による第1回企画展です。

子どもたちと えべっさん

「人形劇の図書館」コレクション展

令和三年七月一日(木)〜十月三十日(土)開催(午前九時〜午後四時)

主催／西宮神社 企画・運営／人形劇の図書館・人形芝居えびす座



うんと古くから、子どもたちは
えべっさんとかかわりが深い。

おとなたちも交じって、

あるいは子どもたちだけで、さまざまに、
えべっさんのそばに登場している。

えべっさんの表情も、

子どもたちと一緒に時は

どこが楽しげだし、

えべっさんの笑顔が子どものように

見えたりもする。

そんな、子どもたちとえべっさんを描いた

江戸、明治、大正、

そして昭和の時代の

「引札」「おもちゃ絵」

「浮世絵」などの「まがざま」を展示します。

ご覧いただけば、きっと、

見ている皆さんもいつの間にか、

えべっさんと同じような

笑顔になっているかもしれません。



八月一日〜九月十五日の間、空調設備更新のため休館致します。

「人形劇の図書館」は、人形劇とその関連の図書資料を収集し公開している日本で唯一の人形劇の専門図書館。図書は1万冊以上、資料は数万点といわれ、中には貴重なコレクションも。フランス、ロシアなどで「人形芝居を描いた浮世絵展」や「街頭紙芝居展」など、国内でもさまざまなかたちでのコレクション展を開催してきた。●蔵書リストは <http://www.o-iri.com/puppetlibrary/> で検索できます。

文化研究所だより (十四)

江戸時代の太々神楽

西宮神社で行われる太々神楽の歴史は江戸時代まで遡ることができます。この「太々神楽」の意味については、江戸時代後期に出版された随筆『三養雑記』山崎美成の説明によると、いつの頃からか始まり、すでに言われている「代神楽」と同じ意味で、その講中の人々に代わって神楽を奏するために代神楽といい、一際、並以上に行われるものを「太々」と称する、とあります。また当時、都鄙を問わず「太々講」というものが盛んに行われていると記されています。

江戸時代の西宮神社の太々神楽も特定の神楽を指しているわけではなく、講を単位に奉納され盛大に行われる一連の神事のことをいうようです。今回はこの太々神楽について江戸時代における様相をご紹介します。

西宮神社の神主が書き記した日記、『御社用日記』によれば西宮神社における「太々神楽」の初見は享保十七年(一七三三)になります。この年、江戸に店を構える氏子十七名より、近年江戸で「太々神楽」と名付けた講を結んでお金を集めており、お供と祈禱、神楽の奉納、そして千度祓を執行して御祓箱(講中に配る幣串を入れる箱)を頂戴したいとの願い出があったのでした。

これに対し西宮神社の神主は「尤ノ志」とその願い出を認め、早速尼崎藩に対して神事執行の届け出に向かいます。ただし、この時神主は氏子からの願い出を、これは千度祓執行の願い出であり、世間では太々

神楽のように風聞しているがそうではない、と述べています。それでもやはり世間では太々神楽と見なされると受けた藩は奢侈や喧噪を警戒し

てか、西宮神社で神事のある六月二十一日に歩行御目付以下五人を現地へ遣わしました。

この日は実際おびただしい群衆であったようですが、神主は「平安無事に相勤、何れも大悦申候事」と初めての試みが無事に終わった喜びを吐露しています。

この後も江戸の太々講と西宮神社の交流は続きますが、明確に太々神楽と称して神事が執行されたのは寛保二年(一七四二)のことで、同年の『御社用日記』の表紙にも「四月大々御神楽始り」と記されています。

三月には、神主からは尼崎藩に対し四月十六・十七日の「大々神楽執行」の願い出がなされ、滞りなく許可を得ています。

十六日の神事は「講中参詣、神主、社役人中神前へ参向、御膳、神酒等献上、祓致執行、神鏡、神剣舞台へ奉成、神幸、大々神楽執行」という次第で行われ、参詣人は雲霞のごとく、人々は渴仰(あこがれ慕うさま)の思いで感涙したとあり、感銘のさまがうかがえます。

また、西宮神社の近傍に位置し古来盛んに人形操をしていた産所村からは、太々神楽の際に社内において「稽古浄瑠璃」を行いたいとの申し出が事前にあり、神事とあわせて境内での興行も計画されたことがわかります。

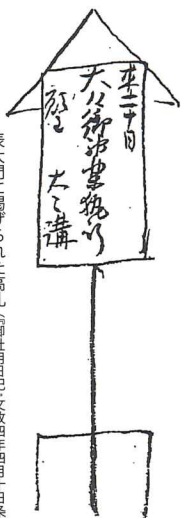
さて、これらの神事の願主は多くが油業や酒造、魚問屋などを生業とする有力商人で、商いの種別ごとに講を形成するようになります。一八〇〇年頃には「江戸酒問屋講」や「江戸酒差配問屋講」、「江戸日本橋魚問屋講」など、江戸のなかでもさまざまな講が

あったことが確認できます。なかには「大坂太々講」や「京太々神楽」もあり、西宮と江戸だけではない地域的な広がりも形成されていたことがわかります。

文化二年(一八〇五)に執行された江戸本船町魚問屋太々神楽では、講元の三砂源左衛門と神主の間で、当日は三砂から講中へ酒飯を出し、神主宅では御神酒と雑煮などを差し出し、また時銭・蔀餅を賑々しく行いたいため、これらの準備は三砂宅から運び入れる、という取り決めをしており、特に講元となる商家の尽力の一端がうかがえます。

江戸時代後期に入ると神社においては継続的に太々神楽が執行されるようになります。文化五年(一八〇八)、西宮神社は翌年以降十五ヶ年の間、毎年三月十八日と四月二十日の両日に太々神楽を行いたいとする願書が大坂町奉行所(明和六年(一七六九)以降、西宮は尼崎藩領から幕府領となる)へ出しており、幕末の嘉永六年(一八五三)まで、十五年ごとに同様の願書が出されています。

一方で、天明四年(一七八四)には納められる神楽料が少ないことを理由に、二日間行われていた太々神楽が一日のみとなり、文政四年(一八二二)には江戸太々講が「近年中絶」と記されており、太々神楽は講においては金銭的な理由などにより必ず毎年盛大に行えるものではありませんでした。太々神楽は時には中断の年を挟みながらも人々の一方ならぬ敬神の現れとして連綿と営まれ、現在に至るのです。



表大門に掲げられた高札(御社用日記文政四年四月一日巻)

公式 Instagram (インスタグラム) を開設しました!



NISHINOMIYA_EBISU_OFFICIAL



このアカウントでは、四季折々の境内の様子や、祭典・行事などについてお知らせしていきます。

皆様からのいいね!、フォローお待ちしております。

アカウント名: nishinomiya_ebisu_official

えびす宮総本社 西宮神社【公式】



えびすフォトコンテスト 開催します!

テーマ 「わたしの幸福」

主催 / 西宮神社

応募期間 / 令和3年6月1日～8月31日まで

この度、Instagram(インスタグラム)西宮神社公式アカウント開設を記念しまして、第一回「えびすフォトコンテスト」を開催致します。

第一回のテーマは「わたしの幸福」です。西宮神社のご祭典であるえびすさまは、七福神の一人であり、皆様に福をお授けするご神徳をお持ちです。今回は、えびすさまのご神徳にちなみ皆様の福々しい写真や幸せな写真を募集致します。

入賞された方には、ギフトカードをはじめ、金色のご神像などの賞品を進呈致します。皆様のご応募お待ちしております。

【応募方法】Instagramへの投稿、現像写真の送付
【入賞発表】令和三年十月一日



協賛: いぬづか写真室、(株)シュゼット・ホールディングス、辰馬本家酒造(株)、長崎写真場、阪神米穀(株)

※詳細は当社公式ホームページ(<https://nishinomiya-ebisu.com>)をご覧ください。

宇都野神社へ御分霊



宇都野神社は、兵庫県美方郡新温泉町浜坂二四五六―四に鎮座する神社です。

この度、宇都野神社氏子崇敬者の総意により、当地の境内社である蛭子神社へ御祭神西宮大

神様を奉斎することになり、令和二年十月二十二日午前十一時に宇都野神社分霊祭が執り行われました。

当日は、えびすさまの御木像を奉安し遷霊、宇都野神社宮司の中島葵氏に玉串をお供え頂き、御木像と分霊證を授与致しました。

祭典は厳粛の内に滞りなく執り行われ、えびすさまは無事に宇都野神社境内社の蛭子神社へ分霊されました。



抗菌抗ウイルスコーティング奉納

四月六日、株式会社コバック様より抗菌抗ウイルスコーティングのご奉納がありました。

当日は各末社の鈴緒を始め、手水舎柄杓、みくじ筒、社務所・授与所カウンターなどコーティングをして頂きました。

参拝の皆様が少しでも安心してお参り頂けるよう引き続きコロナ対策を進めて参ります。



行事案内 リニューアル



令和二年四月より、毎月発行している当社の行事案内をリニューアルしました。西宮市に事務所を構えるデザイン会社6Bがデザインを担当し、毎月集められたり、次月の案内が待ち遠しくなるような内容となっております。イラストや写真を交えて分かりやすく毎月の神事行事や社頭の情報をご案内しております。

令和二年度の表紙は境内の四季や神社にまつわるものをモチーフとしておりましたが、令和三年度は当社所蔵のえびす信仰コレクションとなっております。ご来社の際には是非手にとりご覧下さい。また、毎月送付希望の方は、祭祀課までご連絡下さい。

●祭祀課 電話〇七九八―三三―〇三二―



和 田 岬 神 幸 延 期 に つ い て



当 社では古来よりえびす
さまが神戸の和田岬よ
りご出現されたとの伝承に基
づき海上渡御祭を執り行っ
ています。織田信長の社領没収
を受け中断を余儀なくされ
ますが、平成十二年に四〇〇
年ぶりに海上渡御祭が斎行
されました。そして令和元年
は海上渡御祭再興二十年の
節目の年ということで神戸の
和田岬までの海上渡御祭の
計画を進めておりましたが、
台風の影響により延期、そし
て昨年は新型コロナウイルス
感染拡大の影響で止む無く
再延期となりました。
本年度についても、未だ新
型コロナウイルス感染拡大が
予断を許さない状況であるこ
とから和田岬神幸の延期を
決定致しました。
新型コロナウイルス感染拡
大が終息しましたら、あらた
めて和田岬神幸の計画を進
める予定でございます。皆様
のご理解ご協力の程宜しくお
願い致します。



※写真はご会食プラン¥8,500(会席料理)
ご会食 会席料理 ¥8,500
プラン 御膳料理 ¥6,000 お子様料理 ¥3,500

持帰り用 折詰弁当 ¥3,500~(税別) お食初め重 ¥4,500(税別)



こんどの七五三は
しっかりオシャレして
えびすさまに
お参りしましょ♪

衣裳・お着付け・写真・お食事
大切な祝いの一日は西宮神社会館にすべておまかせ。

七五三パック 貸衣裳・着付
¥35,000 ヘアセット
写真(一式) お母様のヘアセット・着付
前撮り・スナップ写真も
承ります。

七五三衣裳展示ご予約会
6月26日(土)・27日(日) 9月18日(土)・19日(日)
7月17日(土)・18日(日) 10月17日(日)
7月30日(金)・31日(土)

会食・着付受付開始は6月1日(火)より

info@jinjakaikan.com 西宮神社会館 ☎(0798)23-3311

●七五三祈祷料/1人 5,000円(兄弟姉妹の場合2人 8,000円 3人 10,000円) ※千歳飴などお下がりは9月以降そろいます。

西宮神社
公式ホームページで最新情報を
公式Instagramも開設!
ご覧ください。



西宮神社
公式サイト



西宮神社
公式Instagram

西宮神社 公式サイト 検索
https://nishinomiya-ebisu.com

編集室から

世界中で蔓延している新型コロナウイルスの影響で、今年の正月、十日えびすは密を避けるため行事や露店出店など全ての賑いを中止、また開門神事についても福男を選ばないなど例年とは全く違う年明けとなりました。

そして五月の太々神楽祭については、昨年(令和二年)に続き二年連続で一般参列をご遠慮頂き、神職代表者のみで斎行致しました。今号は皆様にご参列頂けなかつた分、少しでも太々神楽祭に触れてもらえればと特集を組みました。

またコロナ禍でも出来る取り組みとして新たにえびすフォトコンテストを開催します。テーマは「わたしの幸福」となっており直接神社に来社できない方でもご参加頂けます。

写真に込められた皆様の幸せを集めて、えびすさまの福とともに多くの方に幸福をお届け出来れば幸いです。

一日も早く新型コロナウイルスが終息し、世界が穏やかになりますようお祈り申し上げます。

※表紙の写真は令和元年太々神楽祭 女人舞楽原笙会による「蘭陵王」